

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス HOMEBASE with knock		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 15日		～ R8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R7年 12月 15日		～ R8年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、個別支援計画に基づいた支援を行い、支援内容やねらいについて計画を示しながら丁寧に説明している。 子ども一人ひとりの課題や目標が明確になっており、保護者と支援の方向性を共有しやすい体制が整っている点を強みとしている。	個別支援計画の内容を職員間で共有し、支援の統一を図るとともに、子どもの様子や成長に応じて柔軟に支援を行っている。 また、保護者に対しては、専門用語を避け、分かりやすい言葉で説明することを意識し、理解と安心につながるよう配慮している。	今後は、支援の振り返りや評価をより丁寧に、個別支援計画の内容を定期的に見直ししていく。 あわせて、職員の知識や支援力の向上を図り、より質の高い個別支援が提供できるよう体制の充実に努めていく。
2	当事業所では、子ども一人ひとりの発達状況や課題に応じた個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行っている。 支援の目標や内容が明確であり、継続性のある支援につながっている点を強みとしている。	個別支援計画の内容を職員間で共有し、支援の統一を図るとともに、日々の支援記録をもとに子どもの変化や成長を確認している。また、保護者に対しては個別支援計画を用いて分かりやすく説明し、支援内容の理解と共通認識が得られるよう努めている。	今後は、定期的な振り返りを通して個別支援計画の見直しを行い、より実態に即した支援内容となるよう改善を図っていく。あわせて、職員の支援力向上を目的とした研修や情報共有を継続し、個別支援の質の向上に取り組んでいく。
3	LEGOを使用したプログラミング活動や英語活動を取り入れ、子どもが楽しみながら主体的に参加できる支援を行っている。 活動を通して、論理的思考力や集中力、自己表現力を育むことができ、発達段階や特性に応じた柔軟な支援が可能である点を強みとしている。	子ども一人ひとりの理解度や興味に合わせて活動内容や難易度を調整し、成功体験を積み重ねられるよう工夫している。LEGOプログラミングでは「できた」という達成感を大切にし、英語活動では遊びや日常的なやりとりを通して、無理なく英語に親しめる環境づくりを意識している。また、職員間で活動の振り返りを行い、支援方法の共有・改善に努めている。	今後は、活動内容のバリエーションを増やし、子ども一人ひとりの発達や課題により適した支援が行えるよう取り組んでいく。 あわせて、職員の研修や情報共有を継続的に、支援の質の向上を図るとともに、保護者への活動内容の発信を強化し、連携を深めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画は作成しているものの、支援内容の評価や振り返りの記録が十分に整理されていない場面があり、計画の見直しに時間を要することがある点が課題である。 また、職員間での支援方法や情報共有にばらつきが生じていることがある。	日々の支援業務に追われ、記録や振り返りの時間を十分に確保できていないことが要因の一つである。 また、職員の経験年数や専門性の違いにより、個別支援計画の活用や評価方法に差が出やすい状況がある。	記録様式や振り返りの方法を見直し、短時間でも効率的に評価・共有ができる仕組みづくりを行っていく。 あわせて、定期的なケース検討や職員研修を実施し、個別支援計画の理解と活用を深め、支援の質の向上につなげていく。
2	支援内容や活動の目的が職員間では共有されているものの、保護者へ伝える機会や方法に偏りが出てしまうことがあり、十分に伝えきれていない場面がある。	日々の連絡が口頭や簡易的なものに留まりやすく、活動のねらいや支援の成果を振り返って伝える仕組みが十分に整っていないことが要因と考えられる。	個別支援計画や支援記録を活用し、定期的に支援内容や子どもの成長を保護者へ分かりやすく伝える機会を設けていく。 また、連絡方法や様式の工夫を行い、情報共有の充実を図っていく。
3	日々の支援や活動は行っているものの、その成果や子どもの成長を客観的に整理し、分かりやすく示す点において十分とは言えない部分がある。	評価の視点や記録方法が職員ごとに異なり、支援の成果を統一した形で整理・共有する仕組みが確立されていないことが要因と考えられる。	評価項目や記録の視点を整理・統一し、個別支援計画と連動した振り返りが行えるよう様式や運用の見直しを進めていく。これにより、支援の成果を職員間および保護者に分かりやすく伝えられるよう取り組んでいく。